

授業者も参加者も創る!! 高まる!! 広げる!!

西部の国語の未来へバトンをつなぐ



国語科授業づくり講座
【宿毛市立宿毛小学校】
教材研究会：10月14日(金)
授業研究会：2月10日(金)

令和5年3月発行
西部教育事務所



学 年：第1学年

単 元 名：わくわくオリジナルむかしばなし～おはなしをつかって、学級図書館を開こう～

教 材 名：「おはなしをかこう」(東京書籍1年下)

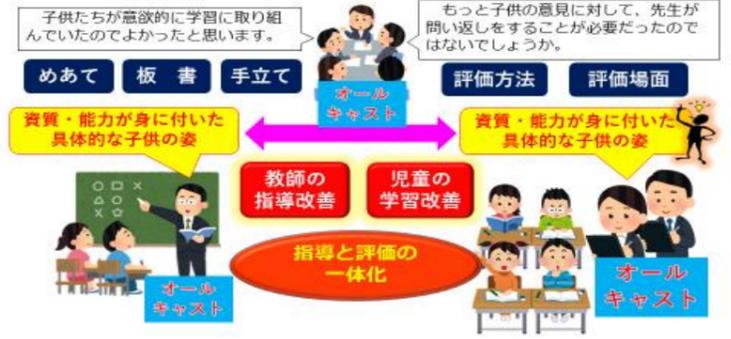
言語活動：自分のオリジナルのお話(物語)をつくり、学級図書館を開き、友だちに読んでもらう活動

授業者 1年A組担任
秋森 美奈子 教諭



「指導と評価の一体化」の実現に向けて

学習指導要領には、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった三つの柱からなる資質・能力が示され、児童が「何ができるようになるか」が重要とされています。授業を通して、児童が「何ができるようになったか」その学習状況を判断・評価するよりどころが評価規準であり、育成を目指す資質・能力が身に付いた児童の姿です。育成を目指す資質・能力が身に付いた児童の姿を明確にすることは、本時における児童の学習状況を評価することにつながるだけではなく、児童の学習状況から次時の指導改善に生かすことにもつながります。公開授業の際には、授業者だけではなく、参観者も本時終了時に育成を目指す資質・能力が身に付いた具体的な児童の姿を明確にして授業を参観することが大切です。



教材研究会

【協議の視点】

概ね満足できる児童の姿を適切に評価できる活動場面や方法を考える。

《参会者の感想(教材研究会)》

- ・学習指導要領を読み、児童に付けたい力を十分に把握する。そして、具体的な姿を思い描き、手立てや活動を吟味していきたいです。
- ・「単元に入るまでの0次の工夫」「子供の姿からの授業改善」など、日々の授業改善に学年団で取り組んでいきたいです。



【本時の目標】 3/9時間

これまでに読んだ昔話を基に想像を広げ、物語の主人公やその人物を考えることができる。

【評価規準】 B(1)ア

「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。

【B概ね満足できる状況】

自分が考えた主人公の人物像を捉えている。

- ・「かぐやひめ」を基に考えたよ。キャベツの中から生まれた「キャベツひめ」。おとなしくて、優しい性格の女の子。
- ・「おむすびころりん」を基に考えたよ。働き者で心の優しい男の子が主人公だよ。

《指導の工夫①》

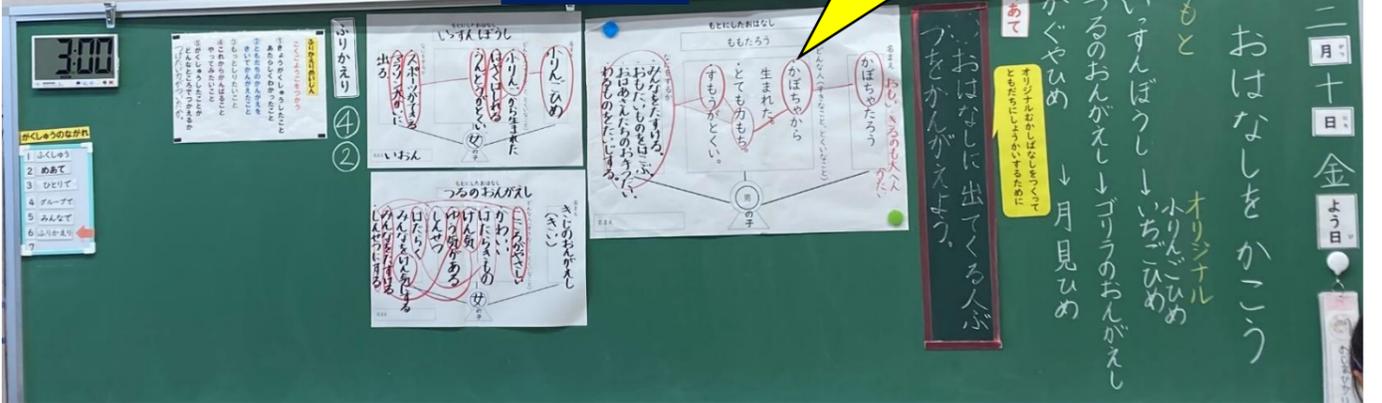
「登場人物の名前」「好きなことや得意なこと」「何をするか」など、自分が考えた主人公の人物像を捉えていることを評価するために、教材研究会で考えられた評価方法(人物メモ)を取り入れた。そして、この人物メモを基に本時で育成を目指す資質・能力が児童に身に付いたかどうか評価を行うようにした。

《指導の工夫②》

「どんな性格か」「大きくなったら何をするのか」など、登場人物の設定やお話の大筋に悩んだ場合に、自分が基にした昔話をいつでも読み返すことができるようにタブレットに複数の昔話を保存しておくようにした。(※出版社の了承を得ている)



本時の板書



【協議の視点】

本時の評価規準である「概ね満足できる児童」の姿を達成できたか。

- ・達成した児童→何が良かったのか(板書、発問、掲示物など)
- ・達成していない児童→その原因は何か(改善策)



【講師による指導・助言】

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官
国立教育政策研究所教育課程調査官・
学力調査官

大塚 健太郎 氏



【評価について】

これまで授業を考えていく際、学習の内容や活動についてはよく考えられるが、評価については後から考えるような流れで行われてきたことがある。学習の内容や活動と同時に評価についても考えていくことが大切である。

【本時の目標、評価規準、学習活動の整合性】※右の写真(講話スライドより)

本時の目標には「想像を広げる」「物語の主人公やその人物像を考える」の二つがある。その目標を達成したかどうかを見取るために「想像を広げていた児童がどれだけいたか」「人物像を考えていた児童がどれだけいたか」などの評価規準がある。評価規準を見ると、「書くことを見付ける」「必要な事柄を集める」「必要な事柄を確かめる」「伝えたいことを明確にする」などがあるが、本時の学習活動ですべてを見取り、評価することはできるのか、本時の目標、評価規準、学習活動の整合性を図ることが大切である。

本時の学習活動と評価規準

本時の目標

これまで読んだ昔話を基に想像を広げ、物語の主人公やその人物像を考えることができる。

評価規準

「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり、確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。

学習活動

人物の名前 どんな人(人物像) 何をするかをつなぐこと

《参会者の感想(授業研究会)》

- ・概ね満足できる児童の姿を適切に評価できる活動場面や方法について吟味していきたいと思ひます。
- ・評価と学習活動の展開をもう一度見直していきたいと思ひます。
- ・評価規準を具体的に考えて設定したつもりでも適切に評価できる場面や方法を想定しておくことが大切だと分かりました。

授業研究会